

平成24年度 工学部・工学研究科 運営方針

2012/6/18

<研究科委員会>

分類	項目	実施(検討)内容	担当委員会等
重点項目	・学部入試倍率の確保(目標:前期入試で全学科3倍以上) ・入学者の学力管理	・高校への広報活動、HPの充実 ・入学センターとの連携(分析にもとづく対策、数回のオープンキャンパス開催等) ・保護者説明会の継続(昨年度同様、全学科・全学年で) ・適切な合格判定等による入学者のレベルアップ	入試委員会
	・大学院定員充足と管理	・博士後期課程入学生の確保(10月入学、留学生の積極的受入れ(協定校)、企業訪問等旅費の配分と活用、博士後期課程学生勧誘の手引き(第2版)の配布等)⇒主指導教員は3年に1人以上の入学受入れの努力を ・准教授の主指導教員への拡大 ・博士前期課程入学生の適正管理方法に関する検討(平成27年度適正入学にむけた定員超過対策)	入試委員会、専攻長・コース長
	・学部&大学院改組	・大学院:H25(或いはH26)年4月改組に向けて文科省説明(新研究科構想とあわせて) ・学部:H26年4月改組に向けて具体案の決定 ・改組にともなう研究院設置の検討 ・大学院3ポリシーの設定	研究科長、副研究科長、研究教育組織検討委員会
	・留年率対策	・H23教育方法改善委員会報告書にもとづいた情報の共有	学務委員会
教育	・基礎教育、キャリア教育	・教養基礎科目の受講徹底(AO・推薦入試入学者) ・ポートフォリオ作成による達成度確認(キャリア教育)	各学科
	・英語教育(TOEIC)	・工業英語の開設・拡大アップなど	学務委員会、各学科
	・FD・教育体制	・JABEE受審に関係なく、機関別認証評価に耐えることができる教育体制の確立 公開授業によるピアレビュー等の実施	学務委員会、各学科長
	・卒業者の学力向上	・数学統一試験の利用等の検討 ・資格取得を推奨する	学務委員会
	・国際化	・交流協定大学・機関との学生交流の推進 ・グローバル人材育成推進事業の実施(採択の場合)⇒留学生の増(派遣、受入れ)	学務委員会、全教員
研究	・各種研究プロジェクトの推進	・大学に届け出済みの研究プロジェクト(27テーマ)の推進と目玉研究への発展	担当教員・グループ
	・研究科としての目玉研究の支援	・H25概算要求:グリーンサステナブルケミストリー研究 ・研究科内での予算支援	研究科長、副研究科長、担当教員&グ
	・資金の獲得	・科学研究費等の獲得の努力	全教員
	・横断的プロジェクト	・医農工連携研究の推進(内視鏡、骨治療、人工声帯等)	担当教員・グループ
	・国際化	・交流協定大学・機関との共同研究等の推進	担当教員・グループ
社会貢献	・地域との密接な連携	・産官学の共同研究の拡大(西部・中部地域へのシーズ発表等) ・インターンシップへの学生参加 ・公開講座や出前授業、ボランティア講演への参画 ・地域人材育成への協力(社会人教育等)	研究科長、副研究科長
組織・運営	・ものづくり教育実践センター	・ものづくり教育科目の充実とたゆまぬ改良。 ・学生のものづくり課外活動と地域のものづくり教育活動は、現在の規模を維持しつつ支援し、内容の充実を計る。 ・特別経費「先進的ものづくり教育プログラムの開発」の推進。ものづくり教育プログラムの試行評価。 ・工作支援、工学部内の要望に留まらず全学からの要望に的確かつ迅速に応える。	センター運営委員会
	・附属電子ディスプレイ研究センター	・第2期・TEDREC(2012-2015)は、①電子ディスプレイ研究等に関する研究の拠点形成(液晶・電子デバイス・メモリ・MEMS等の研究部門に加えて医療電子研究部門を設置)、②次世代・高度職業人の人材育成、③産業活性化への貢献を目標に研究を推進する。 ・企業からの資金獲得(4年間で6000万円以上:共同研究・奨学寄付金)／その他の外部資金(4年間で5000万円以上:受託研究など) ・その他の活動(小学校・中学校・高校での講義や実験／大学見学会の開催／公開講座／TEDREC広報活動／国際交流(教員・大学院生の海外派遣や国際セミナーの開催)／学術交流協定の締結など)	センター運営委員会
	・附属地域安全工学センター	・センター運営に関する年度計画策定(運営委員会)と計画実施のためのWG設置 ・センター設置記念講演会の開催 ・3部門独自の事業推進と部門横断的な公開シンポジウムの開催 ・行政機関との共同研究ならびに委託事業受け入れ(外部資金の獲得と地域貢献推進) ・種助成金申請(学外:文科省概算要求、鳥取県環境学術研究推進経費、学内:学長経費・地域貢献支援費等) ・全学センター化にむけた検討	センター運営委員会
	・広報	・工学部HPの充実とタイムリーな教育・研究成果等の情報発信	広報委員会
	・教員会の開催	・全教員への学部方針の伝達(必要に応じて開催)	研究科長、副研究科